

# 熊本地震から6年、力強く復興する阿蘇地域

～再生の歩みを体験してみませんか～ 現地体験学習の案内

平成28年4月、観測史上初めて2度の震度7を記録した熊本地震から6年。

急ピッチで復旧事業が進められ、令和2年には数鹿流大崩れの斜面对策が完了し、国道57号が開通、豊肥線の全面再開。令和3年には、復興道路の北側ルートや新阿蘇大橋が開通しました。

熊本市や阿蘇周辺住民の暮らしは何とか取り戻すことができましたが、復興の歩みはまだまだ途上であり、これからが地域振興の正念場となります。

南阿蘇村では「熊本地震震災ミュージアム」の一角として震災遺構の保存・整備を行っており、現地案内の語り部達は「防災は、自分のためだけじゃない。自分が生き延びることで大切な誰かを悲しませないように、そして生き残って大切な誰かを救うために必要なんです」と伝えていこうとしています。

今年のみちづくしは、阿蘇市で開催します。たくさんの道守さん達が一堂に会し、現地見学で阿蘇の復興と地域振興へのエネルギーを体感し、今後の自分たちの地域で活動の参考にさせていただきたいと願っています。

翌日の現地体験学習は、新阿蘇大橋や数鹿流大崩れの復旧や復興道路の北側ルート、工事中の滝室トンネルなど見学します。是非とも参加して復興の歩みを体験し、自分たちの地域での活動の参考にしてください。



阿蘇大橋落橋—被災のシンボル



数鹿流大崩—国道57号と鉄道を埋めた



東海大学キャンパスの震災遺構(左:断層跡 右:壊れた教室の窓)



新阿蘇大橋—新しい動脈へ



二重トンネルを抜けて阿蘇の道が拓かれた



着々と工事が進む滝室坂トンネル